

# ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.02-10 NO.019 2010年10月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:[nanbu-kyokai@nifty.com](mailto:nanbu-kyokai@nifty.com)

URL:<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

## 「動と静」

橋本幸夫

〈ガリラヤ湖のほとりで漁師たちの前に立った名もないイエスが、いま私たちの前に名もない人として立ち漁師たちに言ったと同じように我に従えという。そして彼に従い行動した者にだけ、イエスは彼が何ものであるかを生涯を通してあらわす〉  
(A・シュバイツァー)。

あのとき、ガリラヤ湖において主に従った弟子たちは二組の兄弟でした。一組はシモンとアンデレ。彼らは「網を打っている」のを主がご覧になって召されたのでした。

元気いっぱい、目いっぱい網を打っている者が用いられる。まさに現役バリバリ、ヤル気十分な者がその活力をもって寄与するのもすばらしいことです。

しかし、主はもう一組の兄弟をも召されました。ゼベダイの子ヤコブとヨハネです。彼らは「舟の中で網を繕っていた」のを主がご覧になって召されたのでした(マルコ 1 : 16~20)。

網を繕う。これは文字どおり破れを修繕していることです。原語ではカタルティゾーで精神療法で病をいやすカタルシスの語源にもなっています。

人生の戦いに破れ、精神的に疲れ病んでしまっ、その破れを繕っている者も用いられていくのです。

しかも繕う人とは、その破れに絶望しないで、もう一度やり直したいとほころびを修繕している人のことでしょう。

人に対しても自分に対しても決して言うてはならない言葉があります。〈男はつらいよ〉の寅さんの決まり文句で言えば、〈それを言っちゃおしまいよ〉という言葉。それは〈この役立たず〉というものでしょう。

神の恵みは廣大無辺。元気いっぱいの人も、そして病んでいる人も共に用いられていくのです。だから役に立たない人はいないのです。自分で自分を役立たずと思うとき、本当に役に立たなくなってしまうのではないのでしょうか。

アフリカで、刺繍で生計を立てている婦人が祈りました。〈ああ主よ。あなたは針で私は糸です。あなたの導きなしに何もなし得ません。アーメン〉。

お互いに〈動と静〉について考えましょう。針なる主イエスに従ってこそ刺繍を織りなすごとく、私たちの人生は編まれていくのですね。